

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現	金	有	価	証	券	手	形	借	入	金	受	取	利	息	
買	掛	金	受	取	手	形	現	金	過	不	足	支	払	手	形
租	税	公	課	旅	費	交	通	費	土	地	立	替	金		
仮	払	金	建	物	当	座	預	金	売	掛	金				
未	払	金	手	形	貸	付	金	未	収	入	金	仮	受	金	
雑	益	支	払	利	息	引	出	金	雑	損					

1. 月末において現金の实地調査をしたところ、紙幣・硬貨¥98,250、得意先振出の小切手¥26,250、約束手形¥8,000が保管されていたが、現金の帳簿残高は¥122,000（上記小切手のうち、¥2,400は売掛金回収のために受け取ったものであるが未処理）であったため、未処理事項の記帳および現金残高の修正を行う。
2. 緒方商店に対し¥1,250,000を貸し付けるために同店振出の約束手形を受取り、当店の当座預金口座より利息の受取額¥25,000を控除した残額を、緒方商店の当座預金口座に振り込んだ。
3. 事業主の所有する土地に係る固定資産税の納税通知書を受け取り、そのうち第1期分¥90,000を現金にて納付した。なお当該土地は100㎡は店舗部分の敷地であり、200㎡は事業主居住用建物部分の敷地である。
4. 鳩野商事株式会社の発行している株式200株を1株当たり@¥5,400で購入し、代金は証券会社に対し3営業日後に支払うこととした。
5. 従業員に対して旅費の概算払額として¥63,000を仮払いしていたが、本日従業員が旅費の精算を行い、実際の使用額が¥70,000であったため、従業員が立替払いしていた部分を現金にて支給した。

第2問 (20点)

CPA商店の5月中の売掛金に関する取引の記録は次のとおりである。①、②に帳簿名、③～⑩には適切な語句または金額をそれぞれ答案用紙に記入しなさい。

なお、商品売買の記帳は3分法によることとし、補助簿 ② に両商店以外は存在しない。

主 要 簿

①

売 掛 金

5/ 1	前月繰越	180,500	5/12	(④)	()
8	売 上	311,200	18	当座預金	(⑤)
25	()	(③)	27	()	(⑥)
			31	次月繰越	()
					()

補 助 簿

②

赤 池 商 店

葦 田 商 店

5/ 1	前月繰越	77,200	5/12	値 引	8,200	5/1	前月繰越	(⑧)	5/18	回 収	(⑩)
25	売 上	72,900	18	回 収	67,500	8	売 上	(⑨)	27	返 品	19,600
			31	次月繰越	(⑦)				31	次月繰越	80,400
					()						()

第3問 (20点)

熊本商店の[平成28年12月31日における貸借対照表]および[平成29年1月中の取引]は次のとおりである。よって、下記の[平成29年1月中の取引]を集計し、合計試算表を作成しなさい。なお、各取引の中には取引が重複しているものが含まれている。

[平成28年12月31日における貸借対照表]

貸借対照表			
熊本商店	平成28年12月31日現在		(単位：円)
資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現 金	375,900	支 払 手 形	111,300
当 座 預 金	552,300	買 掛 金	212,300
受 取 手 形	124,500	前 受 金	82,100
売 掛 金	226,900	預 り 金	6,200
前 払 金	102,300	借 入 金	50,000
貸 付 金	80,000	資 本 金	1,000,000
	1,461,900		1,461,900

[平成29年1月中の取引]

(1) 現金取引

① 買掛代金の決済	¥ 302,500
② 利息の支払	¥ 2,400
③ 現金売上	¥ 154,800
④ 出張旅費の支払	¥ 34,200
⑤ 仕入先への商品手付金	¥ 63,200
⑥ 従業員への給料の支給	¥ 125,300
⑦ 資金の貸付け	¥ 20,000
⑧ 売掛代金の入金	¥ 420,200

(2) 当座預金取引

① 得意先からの商品手付金	¥ 91,200
② 借入金の返済	¥ 20,000
③ 手形代金の入金	¥ 138,200
④ 利息の受取	¥ 3,600
⑤ 手形代金の決済	¥ 112,200
⑥ 賃借した建物の家賃支払	¥ 24,100
⑦ 小切手振出による商品仕入	¥ 121,000
⑧ 所得税預り金の納付	¥ 6,200

(3) 商品仕入取引

① 小切手振出による仕入	¥ 121,000
② 掛け仕入	¥ 326,800
③ 約束手形の振出しによる仕入	¥ 124,400
④ 手付金による仕入	¥ 61,900
⑤ 仕入返品 (掛け代金から控除)	¥ 2,000

(4) 商品売上取引

① 現金売上	¥ 154,800
② 掛け売上	¥ 421,500
③ 約束手形の受取りによる売上	¥ 142,600
④ 手付金による売上	¥ 89,900
⑤ 売上値引 (掛け代金から控除)	¥ 8,500

(5) その他の取引

- ① 従業員の給料の支払いに際して、源泉所得税¥5,700を控除した残額を支給している。
- ② 売掛金¥2,400の回収不能が生じている。
- ③ 買掛金支払いのために振り出した約束手形¥12,500がある。

第4問 (10点)

以下の①～⑤に当てはまる語句を答えなさい。

1. 財務諸表のうち、一企業における一定時点の資産、負債および純資産の状態（財政状態）を示す表のことを（ ① ）といい、一企業における一定期間の収益および費用の状態（経営成績）を示す表のことを（ ② ）という。
2. 減価償却累計額は有形固定資産から差し引く形で貸借対照表に表示するが、これは減価償却累計額勘定が有形固定資産の各勘定の（ ③ ）勘定であるからである。
3. 3伝票制において、現金の受入のある取引の場合には（ ④ ）伝票を用い、現金収支のない取引の場合には（ ⑤ ）伝票を用いる。

第5問 (30点)

次の[決算日に判明した事項]および[決算整理事項]にもとづいて、答案用紙の精算表を完成させなさい。なお、会計期間は、平成28年1月1日から12月31日までの1年間である。日割計算が必要なものも、便宜的に月割計算によって行う。

[決算日に判明した事項]

1. 得意先より商品代金の手付金として受け取っていた現金¥30,000につき、売掛金の回収として処理していたことが判明した。
2. 仮払金は全額備品の購入代金であることが判明した。なお、当該備品は平成28年9月に取得したものであり、翌月より使用を開始している。
3. 商品¥80,000を購入し、代金のうち¥32,000は当店振出の約束手形により支払い、残額は掛けとしていたが未処理であることが判明した。

[決算整理事項]

1. 期末商品の棚卸高は¥312,500（上記3.の未処理分を含む）である。なお、売上原価の算定は売上原価勘定で行うこと。
2. 期末の受取手形および売掛金の残高に対して3%の貸倒引当金を見積り、差額補充法により設定する。
3. 減価償却は次のとおり行う。なお、期中に取得した備品については月割計算を行うこと。

	耐用年数	償却方法	残存価額
建 物	30年	定額法	—
備 品 期中取得分	8年	定額法	取得原価の10%
既 存 保 有 分	10年	定額法	取得原価の5%

4. 消耗品の未使用高は¥16,000である。なお、決算整理前残高試算表の消耗品は前期末の未使用高であり、当期中に全額使用済である。
5. 保険料は、当期の6月1日の損害保険料の支払額（1年間分）を処理したものであり、次期に係る部分の金額の保険料の繰延を行う。
6. 借入金は平成27年10月1日より借入期間2年、利率年3%、利払日年2回（3月末、9月末）、元本は借入期間終了時に一括返済の条件により借り入れたものであるため、当期に係る支払利息の見越を行う。